

Ⅲ. 資料編

京都銀行の概要

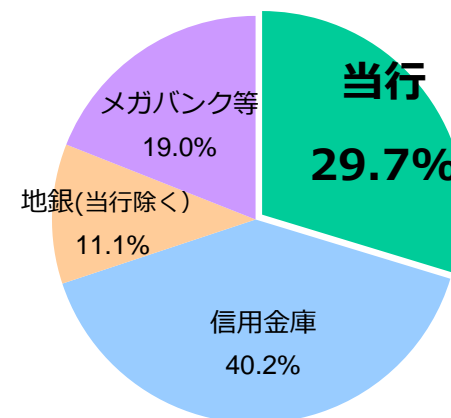
(2023年3月末現在)

項目	計数等
創立	1941年10月
総資産	1兆176億円
預金+NCD	9兆1,046億円
貸出金	6兆3,059億円
資本金	421億円
有価証券評価損益	7,204億円
自己資本比率 (国内基準・規制改正早期適用済)	連結 : 13.51% 単体 : 12.97%
格付	R & I : A S & P : A-
従業員数 (出向者を除く)	3,303人
拠点数 (※)	198か所 (本支店174、専門拠点24)
海外拠点 (駐在員事務所)	香港、上海、大連、バンコク

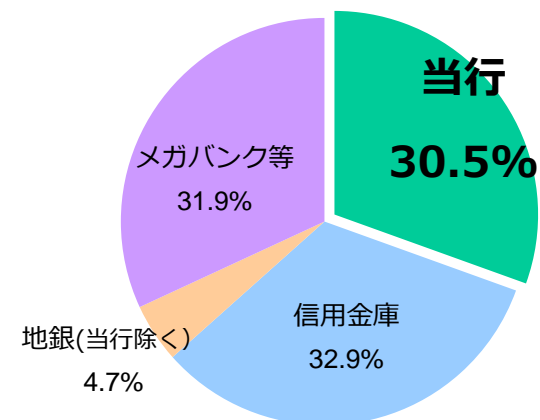
※「相続・資産承継ご相談プラザ京都南 (23年4月開設)」を含む

京都府内シェア (2023/3) (銀行、信用金庫、信用組合に占めるシェア)

貸出金

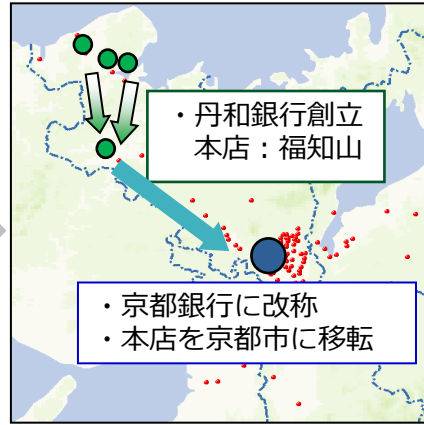
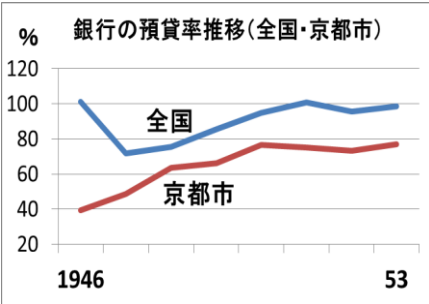


預金+譲渡性預金



資料編 2. 沿革 (概略：創立～平成期)

京都市内では中小企業の
資金難が課題



店舗網
拡充

	京都	大阪	滋賀	奈良	兵庫	愛知	東京	計
2000.3	105	9	0	0	0	0	1	115
2020.3	111	31	14	7	8	2	1	174

+51%

人的資本
の拡充

	従業員数
2000.3	2,862
2020.3	3,440

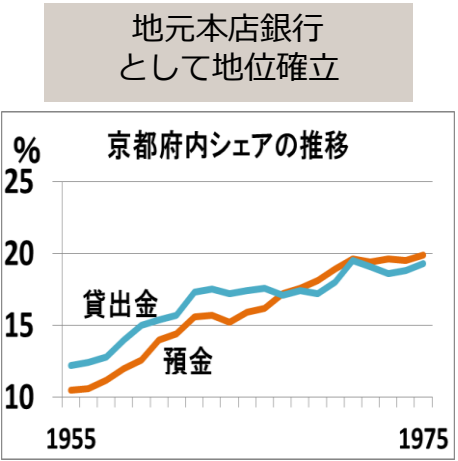
+20%

成長のための
先行投資

昭和

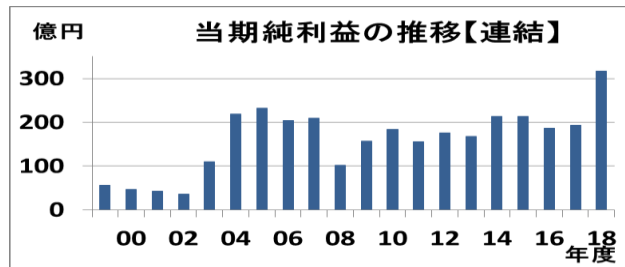
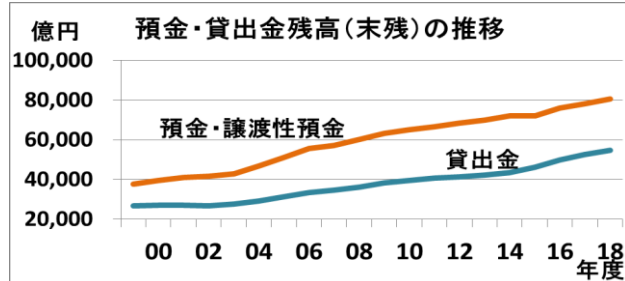
平成

1941年丹和銀行創立
1945年京都府本金庫事務受託
1949年京都銀行に改称
1953年本店を京都市に移転



1973年京都証券取引所に上場
1974年東京・大阪両証券取引所
第二部に上場
1986年第一部に指定替え
1990年滋賀県初進出・草津支店
1999年当行初の赤字決算

広域型地方銀行
として成長加速



2017年京銀証券開業
2018年信託業務へ銀行本体参入

戦後復興
ベンチャー企業の台頭とその後の急成長

高度成長・安定成長

バブル
崩壊

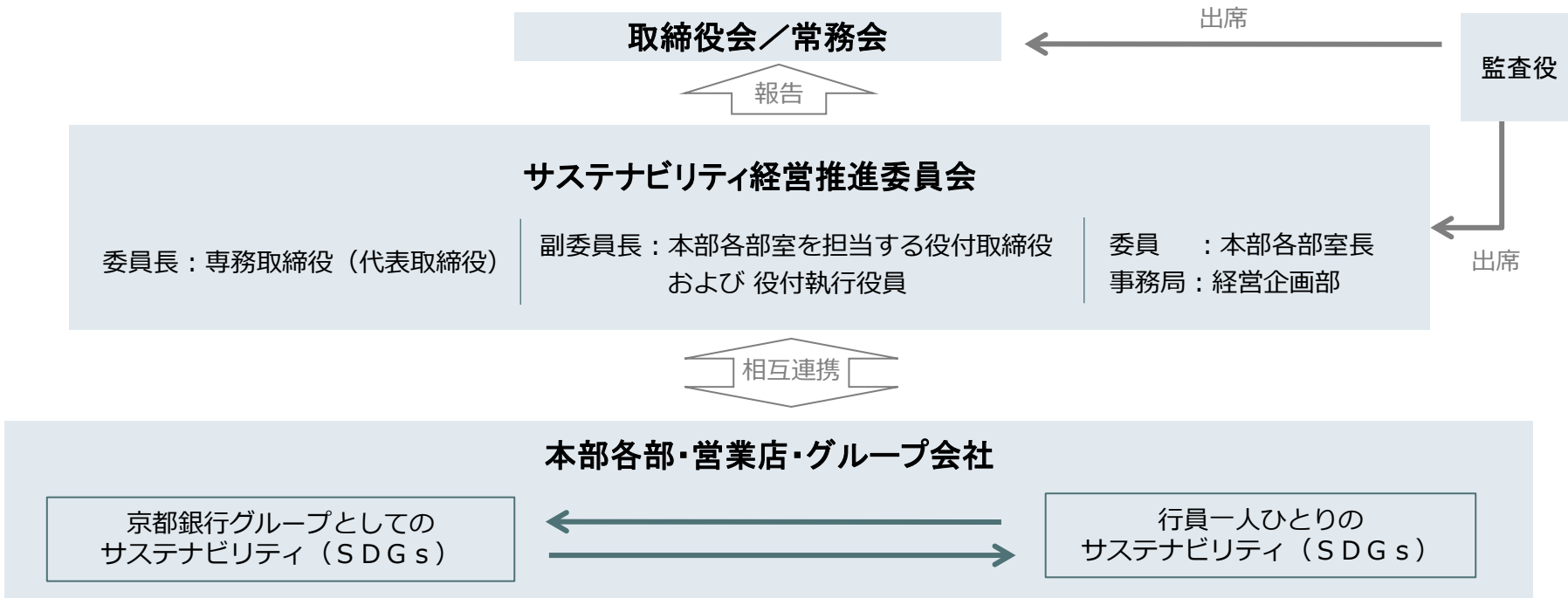
グローバル化
金融再編

リーマン
ショック

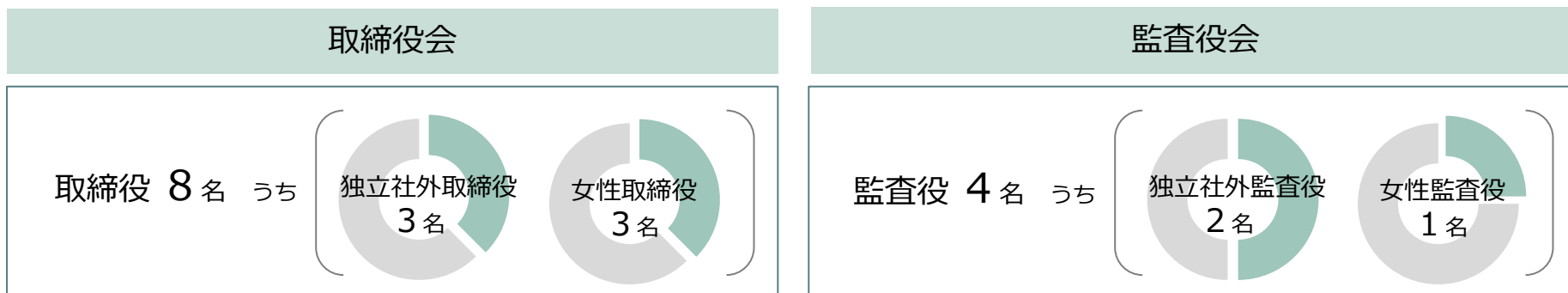
人口減少・低成長

デジタル社会

サステナビリティ経営推進体制



ガバナンス体制の強化（2023年5月末現在）

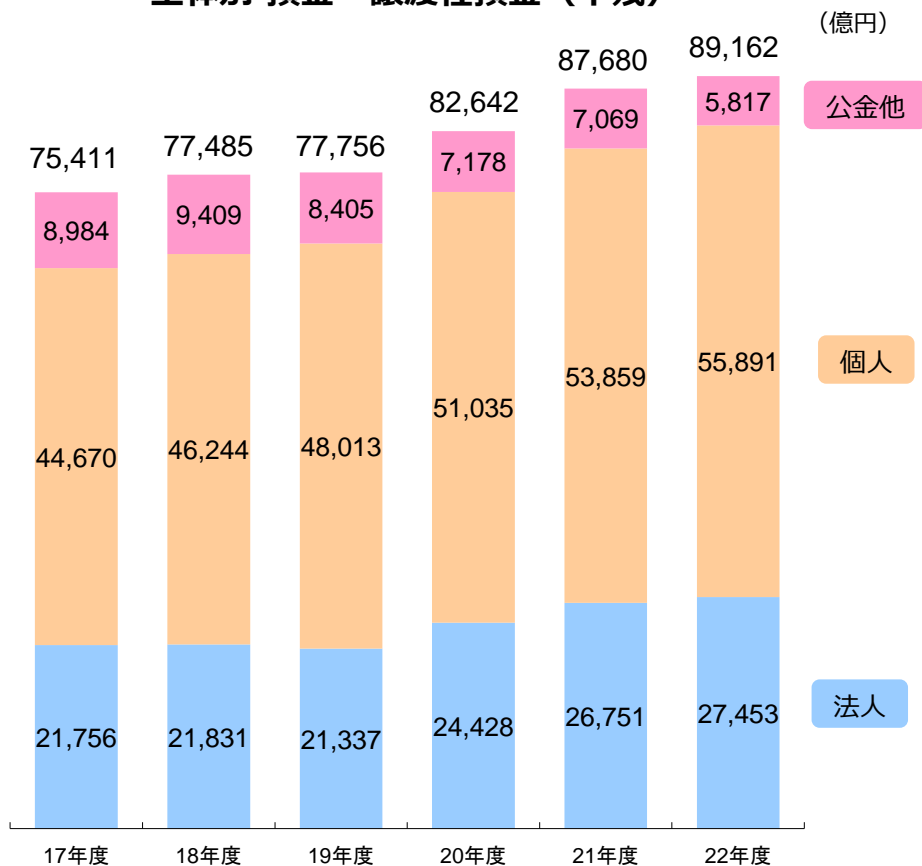


預金・譲渡性預金平残の推移

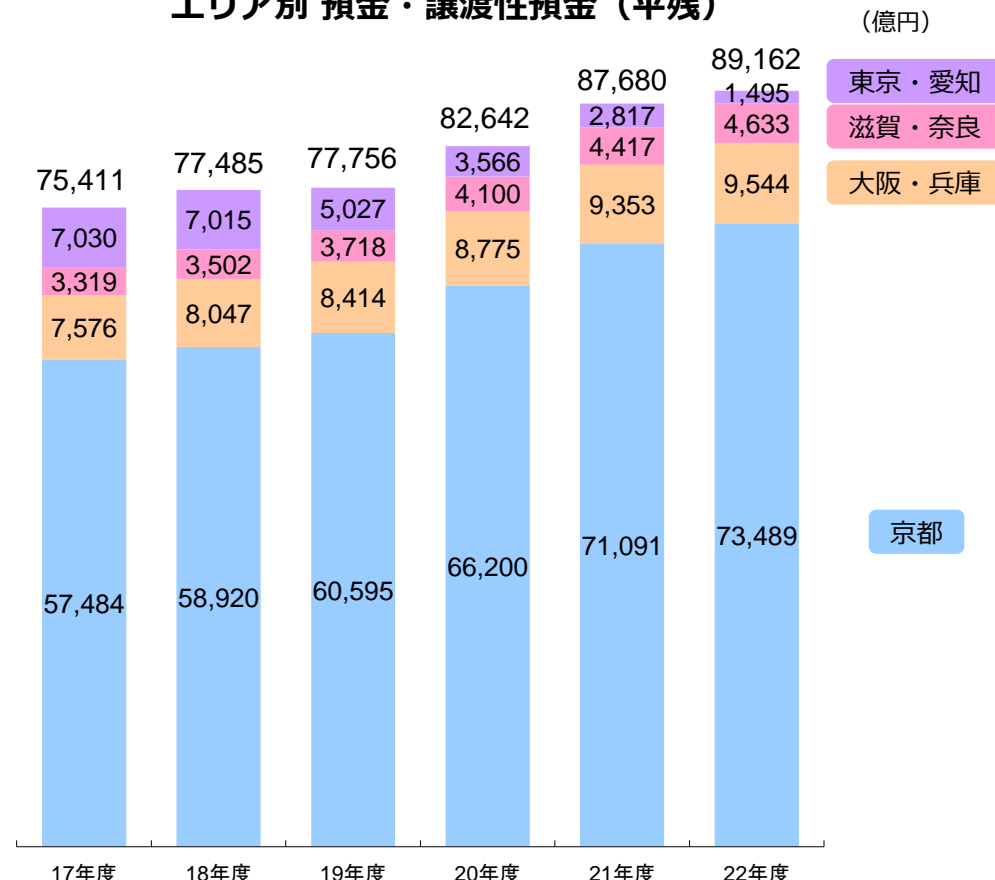
2022年度実績（前年度比）
 法人+702億円、個人+2,031億円、公金他△1,251億円

2022年度実績（前年度比）
 京都+2,398億円、大阪・兵庫+191億円、
 滋賀・奈良+215億円、東京・愛知△1,322億円

主体別 預金・譲渡性預金（平残）



エリア別 預金・譲渡性預金（平残）



貸出金平残の推移

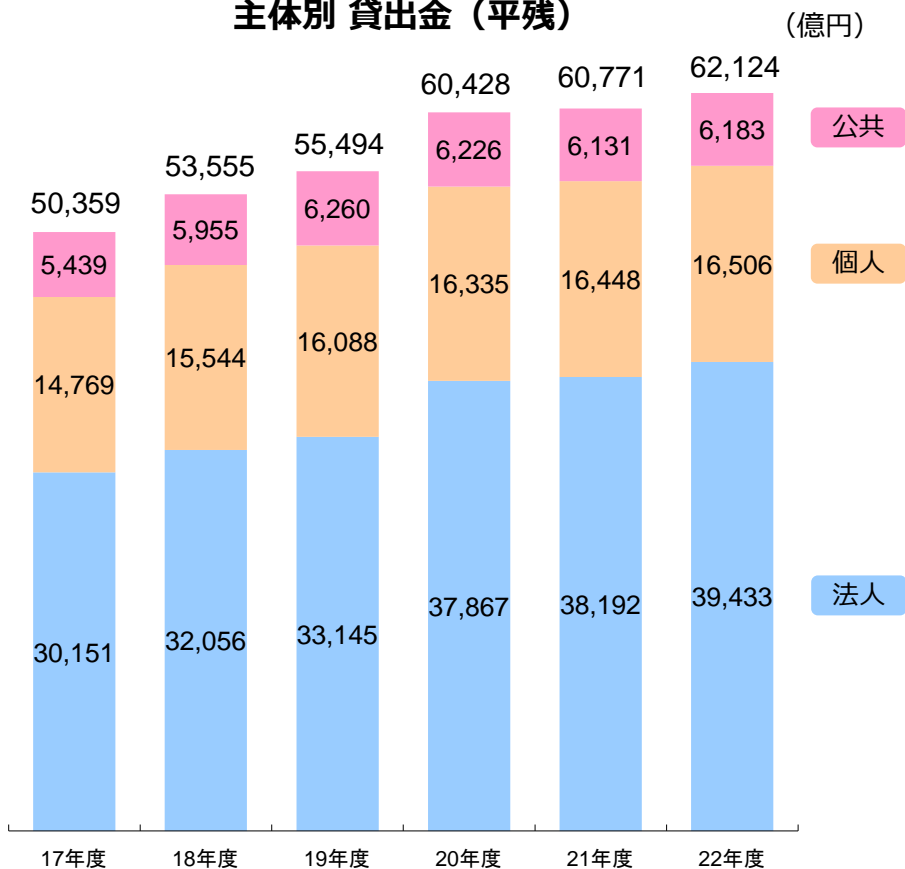
2022年度実績（前年度比）

法人+1,241億円、個人+58億円、公共+52億円

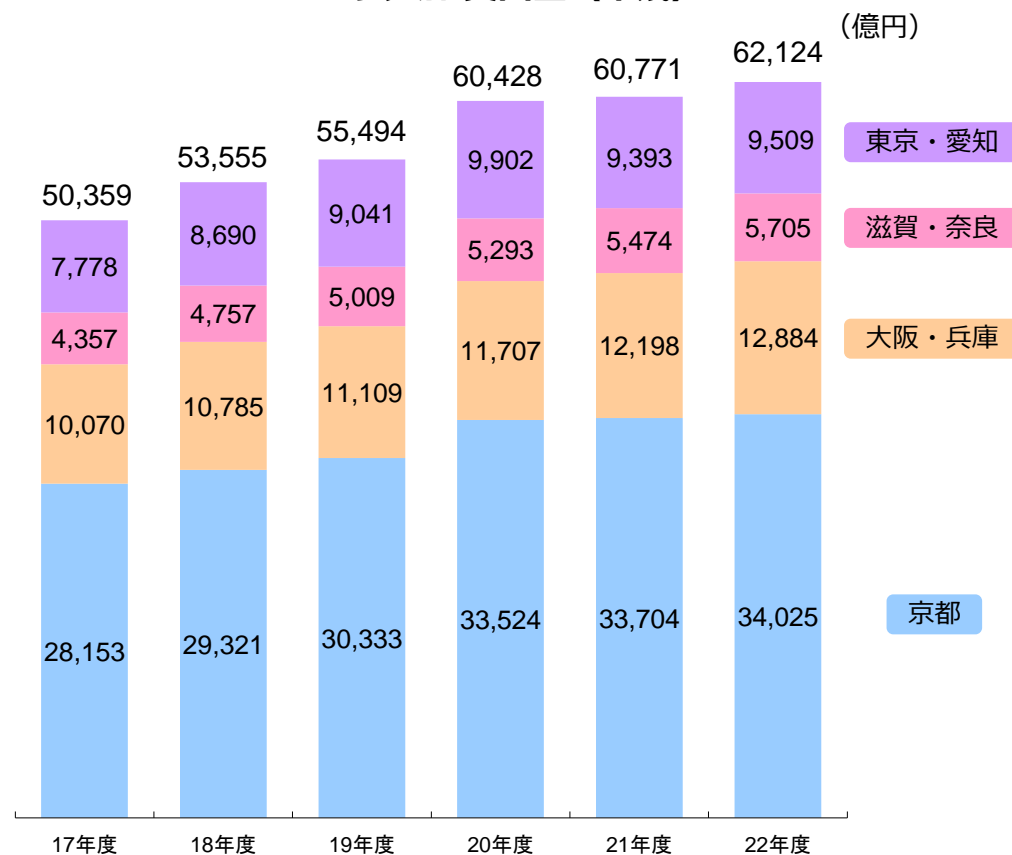
2022年度実績（前年度比）

京都+320億円、大阪・兵庫+685億円、
滋賀・奈良+230億円、東京・愛知+116億円

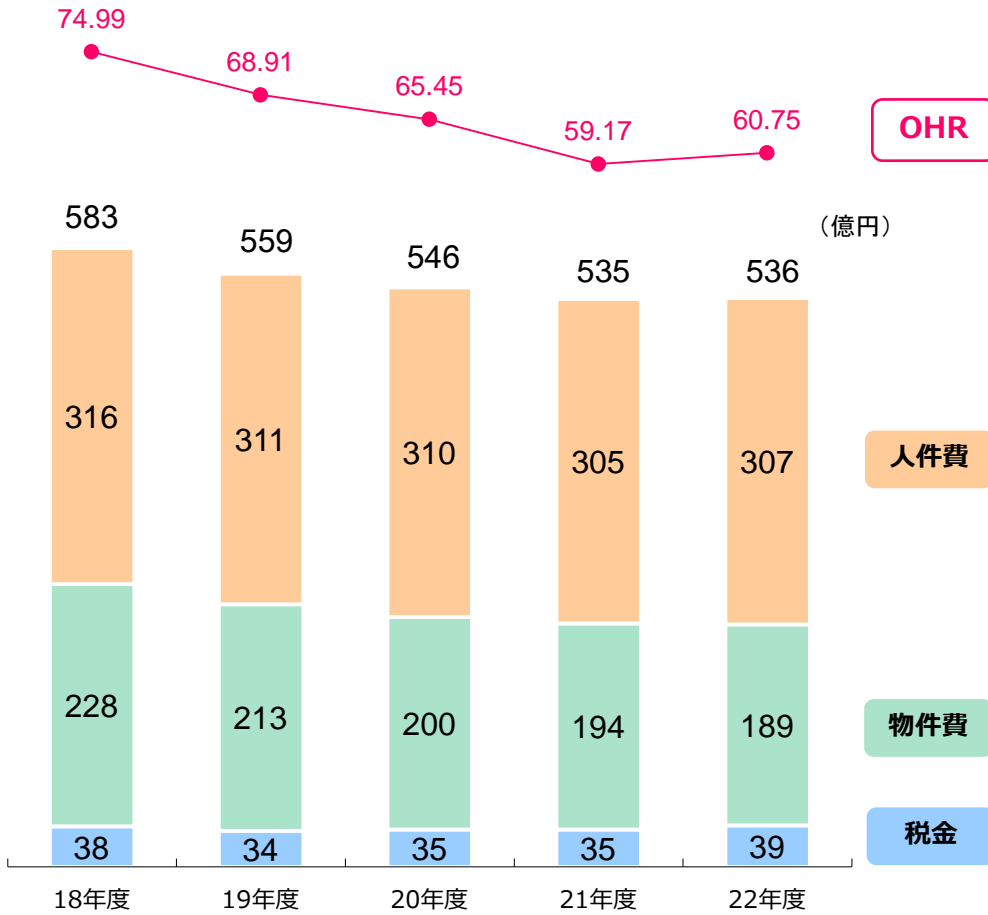
主体別 貸出金（平残）



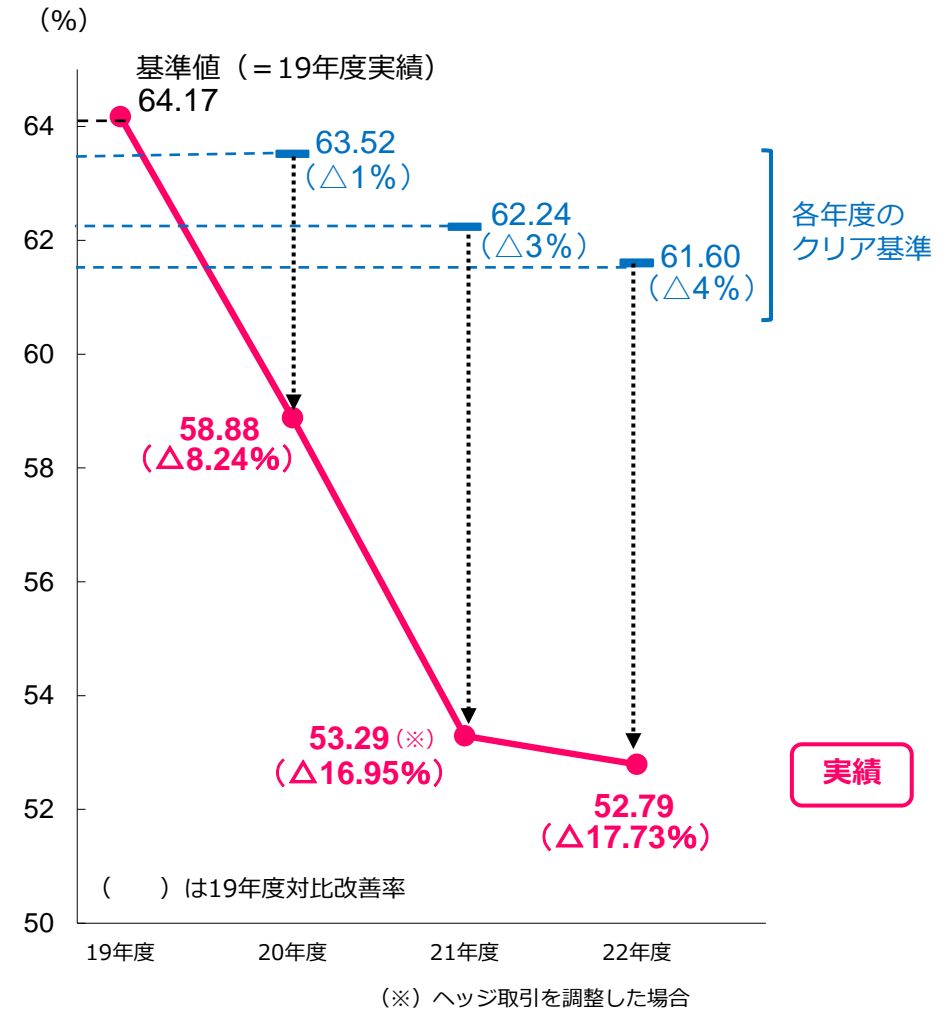
エリア別 貸出金（平残）



経費とOHRの推移(単体)



日本銀行の特別当座預金制度に基づくOHR



(注) 日本銀行「地域金融強化のための特別当座預金制度」に基づくOHR (連結)

$$= \frac{\text{連結経費 (減価償却費等を除く)}}{\text{連結業務粗利益 (国債等債券売却損益等を除く)}} \times 100 (\%)$$

【統合リスク量の状況】

- 2022年度下期の資本配賦額は2,440億円、2023年3月末の統合リスク量は1,237億円

【銀行勘定の金利リスク（IRRBB）】

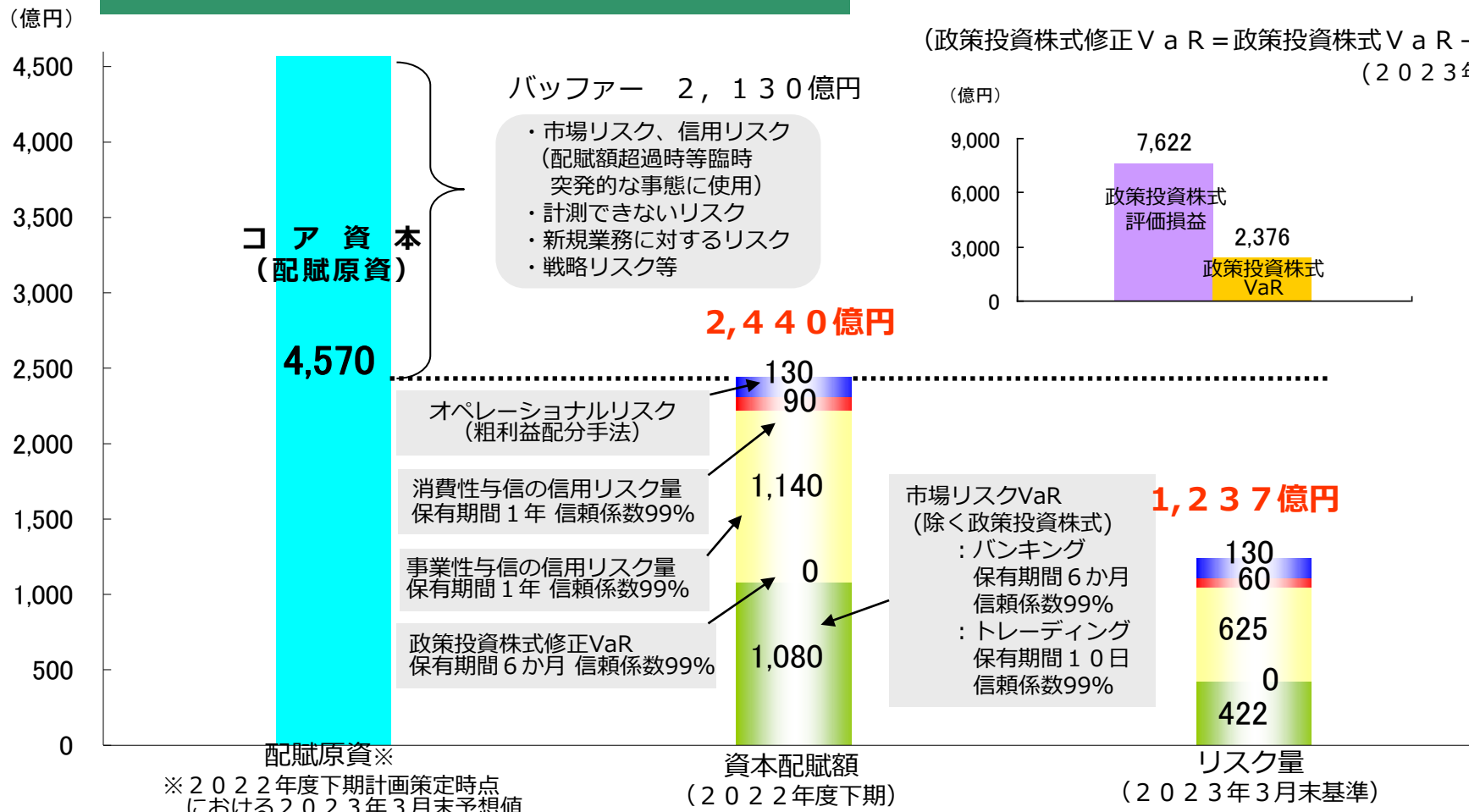
- 2023年3月末のΔEVE（金利ショックに対する経済的価値の減少額）は91億円、自己資本に対する比率は2.0%

銀行勘定の金利リスク（2023年3月末）

ΔEVE	自己資本	ΔEVE/自己資本
91億円	4,580億円	2.0%

自己資本に対するΔEVEの比率は20%以内となっている

統合リスク量の状況（2023年3月末）



連結子会社・関連会社

<子会社>	業務内容
烏丸商事（株）	不動産管理・賃貸業務、当行役職員への商品等斡旋業務、ECモールの運営
京都信用保証サービス（株）	信用保証業務
京銀リース・キャピタル（株）	リース業務、投資業務
京都クレジットサービス（株）	クレジットカード業務（DC）
京銀カードサービス（株）	クレジットカード業務（JCB、ダイナース）
（株）京都総合経済研究所	経済調査・研究業務、経営相談業務
京銀証券（株）	証券業務
<関連会社>	
スカイオーシャン・アセットマネジメント（株）	投資運用業務

連結損益

	（単位：億円）		
	<連結> 22年度	<銀行単体> 22年度	連結子会社等 の利益反映分
連結粗利益	935	883	52
連結経常利益	381	355	26
親会社株主に帰属する当期純利益	272	256	15

ご参考 ながーい、おつきあい 法人イメージ

LTV(Life Time Value)の最大化

$$= \text{単価} \times \text{取引頻度} \times \text{取引継続期間} - (\text{既存顧客維持コスト} + \text{新規顧客獲得コスト})$$



生産性革新・
店舗チャネル刷新・DX

営業エリアの拡大

